

河童大学修士論文

「水の神と河童」

銀座かっぱ村

齋藤昌男

平成22年2月10日脱稿

水の神と河童

1. 緒言

こんな事を書くと年が分かってしまうが、昭和19年の秋、東京より信州へ疎開をしたが、福島県の白岩村と言うところに、祖父母が疎開をしていたので、終戦後のことになるが、そこで一冬を過ごしたことがある。丘の上にあった祖父母の疎開先の家には井戸がなく、天秤棒でバケツを担いで丘の下の水場に水を汲みに行った。水場の裏側には小さな森があり、前面は田圃で、水場には大きな醸造用の樽が埋めてあり、水がこんこんと湧いていた。傍らには小さくても威厳のあるお社があり、このお社は、水の神を祭っているとの事で、水を汲みに行く度に厳粛な気持ちにさせられた。今回はこの水の神と河童との関係を検討して見たい。

2. 八百万の神々

日本には八百万の神々が、いまも生きてい

る。家の神さまを挙げてみると、かまど神、
屋敷神、廁神、門神、納戸神、井戸神、火防
の神などがある。西洋人に色々な神の話をする
ると、何故にバス・ルームにも神様がいるの
だとの質問になり、返答に窮することがある。
これらの他にも、田の神、蚕神、地神、道祖
神、辻神、山の神、柴神、水神、川の神、海
の神、子安神と挙げれば切りがない。

3. 水神と山の神

水神は水稻耕作にかかわって田の神と同一
視されるほか、山中の水源地に水分神（みく
まりしん）としてまつられる場合には山の神
と同一視される。また、飲料水・生活用水を
供給する井戸や泉、川などにも水神がまつら
れることがある。後述の如く、水の妖怪であ
る河童が水神であることを想定させる伝承は
多いが、河童とは水に棲む童の謂である。水
神は女神、ことに少童を持つ母神として表現
される場合があるが、こうした母子神信仰か

ら派生した水神少童が、河童という形象にながったものとみられるとの考え方もある。

田の神はふだん山に住んでいると考えられている。古くから日本では、死者の霊は山に赴き、やがて山頂から天界に昇って祖霊となり、その祖霊が村人に幸いを与えてくれると考えられていた。この祖霊が一般に氏神と呼ばれるものであるが、山に住まう田の神はこの氏神と深い関わりがある。

田の神は農耕のシーズンに先立って、山から降りて来る。そして、村人の農作業を見守り、無事収穫が終わると、再び山に戻っていくと考えられていた。

田の神と交代する山の神は、家の繁栄を願う祖霊が山の高みにたたずみ、稲作の順調な推移を見守る姿にほかならないとする仮説が柳田国男により提出されている。これは春秋去来する神の本質を祖霊とみなすことにより山の神と田の神とをつなぐ考え方である。

農民の間では山岳が農耕にとって不可欠な

水を供給する水源地にあたるところから水分
神（みくまりしん）が座すところと観念され、
作神（さくがみ）・農業神とする信仰が支配
的であり、山の神と田の神の交替を説く信仰
も見られる。

一部の地域においては、水神の姿を背負っ
た河童が、農作業の終わった季節に山に上が
るとの言い伝えもあり、田の神と山の神が春
秋に去来する姿に重なってくる（PHP発行
『日本の神さま』188ページ）。

4. 水神と河童

さてここでもっと水神と河童の関係を考察
しなければならない。その際、頼りになるの
は、やはり各地の伝承である。

(1) 「スイジン」

新潟県内では、河童を「スイジン」「ス
ジンコ」と呼んでいる。これは、おそらく
「水神」からきている。

(2) 水天宮（中央区日本橋蛸殻町）

水天宮は、久留米水天宮の分社を、文政元年、当時の殿様有馬頼徳公が、神主に命じて建てさせた。安産、子授けの神様として有名であるが、水難除け、渡航安全の神様として有名である。九州の筑後川には、河童が住み着いていて、悪さをするので、近くの水天宮がいさめ、それからは水天宮の神の使いとして河童は人の役に立ってきた。これは、河童は神の使いであるとする例である。

(3) 福太郎

松浦静山『甲子夜話』巻65より引用する。

然らば、水難、疱瘡、麻疹の守神として応護あらんと見へて、忽夢覚えたり。

姉訝しく思ひ、親類に告て相集り、共に

箱を啓き見るに、異形のものあり。面は

猿の如く、四肢に水かきありて、頭には

凹かなる所あり。因て前書の説にきわめ、

夢中の故を以て福太郎を称す。後又某候

の需にてその邸に出すに、某候にも同物ありて、同じく夢告により水神と勧請し、江都、その領国に於も屢々靈驗ありとぞ。又云。今この祠を建立に因て水神と唱ふ。信心の輩はこの施版を受けて錢十二孔を寄せんことを請ふ。

(4) 河童の妙薬

次は、多数存在する河童の妙薬の話である。長野県北安曇郡白馬村の例を一つだけ挙げておく。

爺さんがその薬を調剤したところ、効き目が著しいので、「水神薬」と命名して売り出し、越後・越中辺りまで売り歩いた。

その後、この家では、この薬を代々秘伝薬として販売し、分家にも販売させたが、調剤は必ず本家で行い、調剤の際には相伝者が心身を浄め、室を潔めて行ったという。

なお、この家では、河童のことを「水

神様」といい、今でも家の中に祀ってあ
る。（和田寛『河童伝承大辞典』262
ページ・263ページ）

（5）日光の「神橋」を架けた河童
「沙悟浄」は河童に非ずとする佐々木篤
博士の説に反するが、大変興味深いので引
用してみたい。日光開山の祖、勝道上人が、
川（大谷川）を渡るのに難儀をしてい
ると、異様な姿をした神が現れ、『我は
深沙大王というものである。その昔、玄
奘が印度に渡る時にも、天険の難に遭う
たので救ってやったことがあった。上人
また、この難所に来たってためらってい
る。よって、上人たちを安全に渡らせて
やろう』と行って、二匹の蛇を橋に変え、
上人たちを渡らせてくれた。

この深沙王というのは、毘沙門天の化
身で『西遊記』に出てくる「沙悟浄」の
前身である。（和田寛『河童伝承大辞
典』115ページ）

そして現在「神橋」の架かっている所は、
この蛇の橋のところであると言う。

(6) 水神

最後に、前記の和田寛『河童伝承大辞
典』702ページより、もう一つ引用しよ
う。

鹿児島内で、「スイジンサア」（水神
様）と呼ばれるものは大別して次の三種
である。

第一は、大川のほとりにある「水神
社」「水天宮」などと呼ばれるもので、
集落または村の社である。

第二は、水田用水の井堰や用水溝のほ
とりにある「石祠」か「石碑」で、「水
神」「水天」などの文字や梵字が彫られ
ている。

第三は、家々の井戸、洗い場、小川の
ほとりなどに「水神の幣」を切って立て
るものである。

なお、この地方では、ガラッパは水神、

または水神のお使いが姿を現したものと
も考えられている。

5. 結語

以上幼少のときに見た水の神より色々と考
察して見ると、日本人の原点乃至原風景を見
る様で、心が和むものがある。

以上